

## 人民元の国際化と新体制

中国では新体制が名実共にスタートした。ドル人民元は6.21水準と、(人民元の)高値圏で推移している。米国など先進国の金融政策を通貨安競争と非難したが、だからと言って対抗して中国が通貨安を志向しているとは思えない。

人民元高(緩やかな)に推移したほうが現在の中国にとって害が少ないと思われるからだ。それは輸出から内需へとかドル離れという中長期的な目標もあるが、とりあえずこれ以上ドルを溜め込みたくないという事情がある。膨大な外貨準備が持つ為替や金利リスクの肥大化を防ぐためと現実的な運用の困難さがあるためだ。だからドル買い介入はできるだけ控えたい。

中央銀行の総裁は留任だが、他の金融当局者は代わった。日本がそうであるように普通なら政策の変更も考えられるが、中国では今のところそれは見られない。国務院総理の李克強は、これまで副総理として人民元の国際化など経済問題の指令塔だったから、政策の継続は当然でもある。

この度、債券の銀行間市場への外国投資家の参入が認められることになった。人民元の運用手段が広がるわけで、人民元の国際化のプロセスの一環だ。中国は人民元の運用や調達的手段を香港などオフショア市場を中心に広げているが、本土の市場へのアクセスも少しずつ広げている。

これまで本土の資産市場へのアクセスは限定された参加者(RQFII)のみだったが、市場参加者の条件が緩和され、より多くの金融機関が市場参加できるようになった。

今後も人民元の調達、運用の手段は増えることは確実だ。ただ問題はそのペースだ。今のところ、そのペースは緩やかで速まる兆候は見当たらない。